



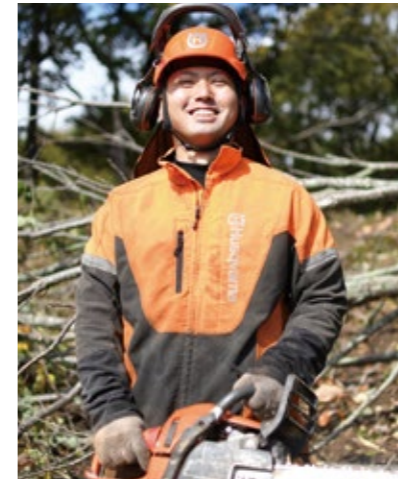
(株)上田製材所
上田 昭雄 会長
うえだ あきお



小中一貫教育校 大槌学園



文化交流センター「おしゃっち」は今年 8 月、日経新聞の「美しい現代の木造建築（競技場・学校・公共施設）」で 2 位に選ばれた。復興と支え合いを地域材で表現したと評価



釜石地方森林組合
黒澤 世伶 さん
くろさわ せれん



山の手入れにやりがい
大槌の木が有名になってほしい

町有林の管理に携わる、釜石地方森林組合職員の黒澤世伶さん。大槌出身で、町外で就職した後、地元へ貢献したいと帰郷しこの仕事を選んだ。今年で 8 年目。形や重心がバラバラな木を切るの難しいが、1 日の目標を終えた時の達成感は格別だという。間伐作業の間、仕事に対する思いを語ってくれた。「手入れの行き届いていない山の間伐などをすると、山が明るくなる。その瞬間にやりがいを実感します。自分が管理することで、大槌の木の価値が上がり、有名になってほしい。そしてこの仕事に就きたい人が増えたら嬉しいですね。大変な事もあるけれど、自然と触れあう仕事の楽しさを伝えていきたい」。環境を守りながら、産業として発展させる。そのためには、黒澤さんらの情熱は欠かせない。

森林価値を高め選ばれる地域へ
山を元気にして町を元気に

康広社長も、「おしゃっちは木造で 3 階に図書館がある珍しい建築。身近にある木で大きなものを作る技術や、木造の良さが詰まった建物に携われたのは誇らしいこと」。上田さんらが誇りを持って携わった大槌学園やおしゃっちは、多くの町民が笑顔で集い、木のぬくもりを感じられる場所になっている。

釜石地方森林管理協議会では、森林認証後の取り組みについて、FSC 認証材の販売利活用の促進などを通じて、森林の価値や、森林所得の向上につなげていく考えだ。さらには、現在の森林管理の認証だけでなく、加工・流通においても認証を取得し、FSC 認証材の生産から加工までを管内事業者で行う体制づくりに取り組む。釜石地方森林組合の高橋幸男参事は「木材は科学的に特徴

認証材は世界への大きな入り口
町の施設を木で造り上げた誇り



(株)上田製材所 上田 康広 社長
うえだ やすひろ

町内で古くから製材業を営む、(株)上田製材所の上田康広社長は、「FSC 森林認証は、世界に通用する基準となるもの。大槌の木材が、その大きな入り口に立ったという、とても良いことだと思う」と前向きに語る。「最近ではえばオリンピック関連の建築や、有名なイケアやスターバックスなども、FSC 認証材を求めて使っている。そのぐらい良いもの、価値のあるものと、町の子どもたちや、もちろん大人もぜひ知ってもら



釜石地方森林組合
高橋 幸男 参事
たかはし ゆきお

化しづらいところはありますが、森林認証の様に第三者に認められることは大きな一歩。価値を高め、選ばれる地域にしたい」と目標を語る。国際的評価を受けた森林管理のもと、山を元気にし、生産者や加工業者などの産業も元気にする。豊かな森林を育むことは、海の恵みや、災害の防止にもつながっていく。

木が当たり前前にあるありがたみ
大槌を誇る気持ちがブランドへ

「木材は都会の方が需要が高い。身近にあるからこそ、その価値に気付かないって事ありますよね。この地域は非常に山林が多い地域ですが、

いたい。さらには木の良さや、自然に優しい材料だということをもっと感じてほしい」。木材をもっと使ってもらい、産業として大きくなるきっかけになってほしいと願う。

父親である上田昭雄会長は、自社の木材について、「しっかりと乾燥させ、ねじれやくるいの無いものを作ること」を特に大事に考えている。「震災後、大槌学園やおしゃっちといった施設の建設に、地域業者で木材を供給できたことは非常に良かった。学校という教育の場に、地域の木材が使われ、子どもたちが触れることは素晴らしいし、嬉しい」と話す。



住んでいる人はそれが財産である事を忘れてしまふんです」森林、木材に関わる多くの人々は、木の素晴らしさやありがたみを理解し、それぞれが誇りを持って大槌の山と向き合っていた。その「大槌プライド」を、世界が認めたのだ。今後さらに、価値を高め、選ばれる地域になるために必要なのは、私たち町民が地元の木をよく知り、肌で感じ、宝物だと気づくこと。一人一人が大槌を誇る気持ちで、揺るがない「大槌ブランド」を創り上げていく。



適切な森林管理の推進は、持続可能な継続目標 (SDGs) への貢献も期待される

